

賛否など態度決定に至った理由・討論

令和6年6月定例会	
議案番号 議案名	議案第10号 副市長の選任について
議員名・会派名等	市民力(山中啓之、湯浅文)
賛否態度	反対
賛否など態度決定 に至った理由や 討論	<p>※市民力は、本会議および委員会での討論という本来の発言を最大限に活かすことこそが議員の責務と考えます。非公式の場に、議会で発言してもいない意見を掲載するというやり方は、議員自らが議会における議論を軽視する行為であるとの考えから、以下、本会議・委員会など公の場で討論した内容を掲載いたします。</p> <p>市民力の山中啓之です。</p> <p>議案第10号「副市長の選任について」反対を致します。 尚、選任されたご本人に一切の非はありません事を改めて申し添えます。</p> <p>(反対の理由) 質疑より、不明な点が多く…と言いますか、不明点しか残りませんでした。 今回もまた、国に振り回される形での市の望まぬ任期途中での残念な副市長交代劇が行われています。 事務的に本市の業務を不安定にさせたばかりでなく、その任期内に期待していた成果が充分出たとは到底考えられない事が反対の理由です。</p> <p>(理由の詳細) とりわけ大型事業―市庁舎移転を孕んだ新拠点ゾーンの整備及び新松戸駅東側地区―の両区画整理事業について、これまでの副市長を見ても、議会との相互理解がお陰様で深まったとは言えません。 根拠は、議決における個々の議員の賛否態度やその討論内容を検証すれば一目瞭然です。</p> <p>そもそもこれまでのお二人とは、議会以外では挨拶等を除いて殆ど会話すらなかったというのが現状です。私から副市長室に押しかけて「議論してもらえませんか？」と自ら乗り込んだ方が宜しかったのでしょうか。</p>

(今後への懸念)

今後、溝が深まる中で、議会と理解をどう深めていくのか、一体どう物事を進めていかれるのか、不安は募る一方です。これは副市長の責任ではなく、任命権者の市長の責任です。

(市長の姿勢)

私の質疑に対しても、明確にどころか登壇されることもなく、伊藤副市長だけが答弁されていました。

(まとめ)

『そもそもの任命権者である市長の姿勢が変わらない限り、改まらない限り、本市行政が抱える最大の懸案は晴れることはないんです。その兆しが見えない、示されないままの本議案、これは副市長に誰が来られる議案であっても、直ちに賛成することはできない』といった 3年前の宇津野史行議員の討論を引用させて頂きまして、市民力を代表しての反対討論とさせて頂きます。

皆様の反対へのご賛同をよろしくお願いいたします。

以上